

## 薬剤科 DI ニュース

今回は、下剤についてまとめてみました。下剤は腸内容物を軟化し排泄を容易にするほか、腸内の異常な腸運動を調整して腸内容物を排泄させる薬剤です

分類	作用機序	一般名（商品名）
塩類下剤	腸管から吸収されず、水分の吸収を妨げて腸内容物を流動化し、物理的刺激により蠕動運動を起こす。	酸化マグネシウム（カマグ） クエン酸マグネシウム（マグコロール）
膨張性下剤	腸内容物を増大して、腸管を刺激する。	CMC-Na（バルコーゼ）
糖類下剤	腸内分解で発生した有機酸により腸運動が亢進し、排便を促す。	ラクツロース（モニラック）
大腸刺激性下剤	腸粘膜を刺激して蠕動を亢進させる。	センナ（アローゼン） センノシドA及びB（プルゼニド） ピコスルファートナトリウム（ラキソベロン）
腸管洗浄剤	腸管からの水分の吸収を妨げて、腸内容物を流動化させるとともに大腸の蠕動運動を誘発させる。	塩化カリウム・塩化ナトリウム・炭酸水素ナトリウム・無水硫酸ナトリウム（ニフレック）
浣腸剤 坐剤	直腸壁を刺激し、大腸の蠕動運動を誘発するとともに直腸壁面と大腸との潤滑液として作用し、直腸S状結腸内容物を排泄する。	グリセリン（グリセリン浣腸） ビサコジル（テレミンソフト坐薬） 炭酸水素ナトリウム（レシカルボン坐剤）

便秘は薬物により二次的に生じている場合も少なくないので注意して下さい。

－便秘の原因となる薬物－

制酸剤、抗コリン剤、鎮痛剤、鎮咳剤、麻薬、鎮痛剤、鎮咳剤、麻薬、抗うつ剤、抗不安剤、向精神剤、パーキンソン病治療剤、利尿剤、気管支拡張剤（ $\beta_2$  刺激剤）、血圧降下剤（Ca拮抗剤）、筋弛緩剤

下剤の禁忌について

一般的に急性腹症への投与、器質的便秘、腸狭窄などには禁忌となります。急性虫垂炎では穿孔の危険があり、また、閉塞機転や多量の硬結便のある場合などは峻下薬で腹痛が悪化することがあります。大腸刺激性剤は骨盤内充血をきたすので痔疾患患者、骨盤内臓器の炎症、月経、妊娠時には通常禁忌です。大黃、アロエは授乳中禁忌であるほか、センノシド（プルゼニド）も慎重に投与します。

便秘に対して、下剤を用いますが、便秘の原因は様々あるので、原因に応じた治療を行う必要があります。生活様式や食事療法などで改善させる場合もありますが、腸の炎症や手術後の癒着、悪性腫瘍による便秘もありますので、常に全身疾患の有無を考えながら下剤を使用する必要があります。

（野村）